

## 作家略歴（五十音順）

---

### 我妻 碧宇 あづま へきう

1904（明治37）年～1970（昭和45）年

山形県に生まれる。赤羽雪邦に学ぶ。昭和4年日本美術学校卒業後、中村岳陵に師事する。昭和11年名古屋に転居。昭和年文展にて「林間」が愛知県初の日本画特選となる。戦後は日展を中心に作品を出品するが、昭和36年に日展を脱会し、白士会を結成してその中心的役割を果たした。

### 伊津野 雄二 いづの ゆうじ

1948（昭和23）年～

兵庫県に生まれる。東京都立戸山高校を卒業後、愛知県立芸術大学彫刻科に進むが中退。1975（昭和50）年に知多工房を設立、木彫、家具木工芸を手掛ける。1980年代より建築、装飾美術を手掛けるようになる。現在は岡崎市の山間にアトリエを構えて具象彫刻を追求し続けている。

### 荻 太郎 おぎ たろう

1915（大正4）年～2009（平成21）年

愛知県稲武町に生まれるがすぐに岡崎に転居する。旧制岡崎中学（現愛知県立岡崎高校）に進学し、山本鎌太郎に学ぶ。旧制岡崎中学卒業後は東京美術学校（現東京藝術大学）に進学し、南薫造、猪熊弦一郎に師事する。猪熊弦一郎の影響もあり、新制作派協会に出品し昭和16年に新制作派協会展で新作家賞を受賞する。以後新制作協会展に出品を続け、新制作協会会員になる。第3回長谷川仁記念賞、第3回小山敬三美術賞、平成14年には中村彝賞など数々の賞を受賞する。一貫して人間の生と死を主題とした作品を制作、高く評価された。三州岡崎葵市民に顕彰された。

### 倉光 博之 くらみつ ひろし

1911（明治44）年～2007（平成19）年

愛知県額田郡岩津村（現岡崎市）に生まれる。旧制岡崎中学（現愛知県立岡崎高校）に進学し旧制岡崎中学卒業後は東京美術学校（現東京藝術大学）に進学し、中村岳陵に師事する。日展を中心に活躍し、特選、白寿賞などの賞を受賞する。日展脱退後は無所属で活躍した。三州岡崎葵市民に顕彰された。

### 鶴見 雅夫 つるみ まさお

1936（昭和11）年～2021（令和3）年

愛知県岡崎市に生まれる。1954年新制作展に出品し初入選。以後新制作展に出品を続ける。1959年多摩美術大学美術学部絵画科油画専攻を卒業。1960年新制作展にて新作家賞を受賞。翌年の新制作展で新作家賞を受賞。2年連続での受賞となる。1962年国際青年美術家展に出品。1966年多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。同年に新制作展にて協会賞を受賞する。1967年

新制作協会会員に推挙される。以後は、新制作展とともに個展で作品を発表する。1970年多摩美術大学助教授、1984年多摩美術大学教授となる。2006年多摩美術大学を退官、多摩美術大学美術館にて「彩に情熱 鶴見雅夫展」が開催される。2021年1月31日逝去。享年85歳。

## 中根 雪窓 なかね せっそう

1849（嘉永2）年～1924（大正13）年

岡崎宿本陣中根家に生まれる。名を正貞、世襲名を甚太郎と称した。曾我耐軒、谷口藹山（たにぐちあいざん）、山本梅荘らに学ぶ。日本各地の山川を巡り、山水画を得意とした。大正期の岡崎日本画壇の盛隆を築いた。

## 中村 正義 なかむら まさよし

1924（大正13）年～1977（昭和52）年

愛知県豊橋市に生まれる。畔柳赫、杉山哲朗らに日本画を学ぶ。昭和21年日展で初入選する。以後日展に出品を続け、特選、朝倉賞、白寿賞など数々の賞を受賞。36歳の若さで日展審査員に推挙されるが、昭和36年に日展を脱退。以後、画壇組織の制約を離れ、大胆な作風に転じ、日本画の新たな方向性を示す作品を制作した。日本画壇の風雲児とも称された。肺がんにより52歳の若さで逝去した。

## 早川 黎香 はやかわ れいこう

1888（明治21）年～1948（昭和23）年

東京赤坂の神田明神第12代目の三男に生まれる。京都に出て田能村直入に師事して南画を学ぶ。明治末に岡崎市米河内の近藤家に寄宿する。その後は岡崎に残り、岡崎市康生町に居を構える。岡田撫琴（おかだぶきん）、近藤孝太郎、杉山新樹らとも親交を深めた。

## 平岩 三陽 ひらいわ さんよう

1893（明治26）年～1982（昭和57）年

東京に生まれるが父の仕事の関係で幼少時を岡崎で過ごす。小学校の卒業とともに東京へ戻り、日本画家を志し川合玉堂の門下となる。東京美術学校（現東京藝術大学）に入学。大正12年の関東大震災により東京の自宅が焼失し岡崎へ転居する。以後日本画の本格的な創作活動を展開し帝展や文展に出品する。戦後は日展に作品を出品し日展会員にもなるが、展覧会への出品はせず、自宅での制作に専念した。大正から昭和期にかけて岡崎の日本画壇の中核として活躍した。